

一化学物質過敏症患者 からみた今の家づくり

牧野恵津子

①

3省1庁と民間団体、研究機関が合同で発足させた「健康住宅研究会」は、平成8年に陽の目を見た。今年3月には、異例ともいえるスピードで、ガイドラインが発表された。この会の発足の陰には、新建材や白蟻駆除剤で体に被害を受け、「家がなにかおかしい」と感じ取った1人の母親の鋭い感性が発端となっている。投じた一石が波紋を広げ、ついには住宅業界に「健康住宅」という大きな潮流を産みだしたのだ。

自らの被害を個人レベルに止めず社会に問い、「健康住宅」という言葉の誕生さえ、この人の問題提議が一翼を担っている。ガイドライン発表という一つの区切りが出された今、これまでの経緯を振り返り、渦中に身を置いたユーザーが、工務店にどう係わり、何を望んだのか、手記としてまとめていただき、シリーズで発表する。

初めてのリフォームで
ウツ気分と無気力さが
もう12年も前にさかの
ぼるが、自宅を大掛かり
にリフォームし、床下に
白蟻駆除を施した。その
直後から、私は微熱が数
カ月続き、動悸がひど
く、呼吸困難、頑固な不
眠、強いウツ状態、その
他書き切れない程の体
の不調が始まった。文字
通り、頭の前から足の先
まで様々な症状である。

「精神的なストレスでは
ないか」との事だった。
実際に症状の中で1
番苦しかったのが、のめ
り込みそうなウツ気分
と、無気力さである。汚
し盛りの男の子が2人
いるというところは、毎日
がドロ汚れとの格闘であ
るのに、気が沸いてこ
ない。リフォームによつ
て、絵に描いたような幸
せが手に入るはずだった
のに……

描いた幸せが一転 地獄の日々に 心身異変の原因に気づく

■まきの えつこ

病院に駆け込んだも
の近隣の病院では、
全ての科に回され異常
なし。転々と病院を変
えても、結果はさして
「精神的なストレスでは
ないか」との事だった。
実際に症状の中で1
番苦しかったのが、のめ
り込みそうなウツ気分
と、無気力さである。汚
し盛りの男の子が2人
いるというところは、毎日
がドロ汚れとの格闘であ
るのに、気が沸いてこ
ない。リフォームによつ
て、絵に描いたような幸
せが手に入るはずだった
のに……

1989年、子どもの通う小学校
での、ずさんな農薬使用に疑
問を持ち、反農薬東京グルー
プと共に、様々な問題に取り
組み始めた。学校校庭の無農
薬管理、給食の無農薬野菜の
導入、プール腰洗い槽塩素使
用の廃止、町会の農薬配布中
止。空中での農薬散布・ゴルフ
場新設の反対運動、シックハ
ウスへの啓発・ダイオキシソ
ミ問題運動を経て現在化学物
質過敏性ネットワーク(CSネッ
ト)運営。和服への遺贈も深く、
こだわりの民家移築に住まう。

お風呂場も出
来た。明るいキ
ッチンも実現し
た。新しい改装
とともに、全てが
新しく始まるは
ずであった。

期待で始まった生活
のど真ん中、こんな体の異
常や、精神的ストレス
を引き起こす原因を見
つけば良いのか。どこ
の診療科でも精神的受
診を勧められたが、結果
はウツ病ではなく、ウツ
状態との診断。この頃
には病状はさらに進み、
心臓や呼吸の苦しさを
家で寝込むことが多く
なっていた。(つづく)

一化学物質過敏症患者 からみた今の家づくり

◇ずさんな状況で発作
的に自殺未遂
幼い子どもがいる家
庭は、ずさんな状況と
なった。ある晩でこの
と、暗がり夕食代わ
りの菓子パンを頬張っ
ている子どもたちを見
ていると、あまりに自
分が情けなく「母親の
資格などない」と、衝
動的にナイフを自分の
手首に当てた。ハッと
我に返ったときには、

既に死への誘惑は抗し
難く、とっさに119
番を回した。
「自殺しようなの。す
ぐに救急車をよこして私
を止めてほしい」。

救いを求めた。その
時の119番の対応
は、今でも忘れない。
「手首を切ったのです
か?」「いいえ、切りそ
うなの助けて!」「切
つていないのに救急車
は出せません。予想外
めていたのである。

津子 恵 野 牧

②
の答えに私は茫
然自失となっ
た。全ての気力
がなえてゆき、
その場に座り込
んでしまった。
大病院ならばとの
思いで、一からの検査
の日々が始まった。遠
距離なので自宅を離れ、
留守にする日々が続い
て数カ月。不思議なこ
とに、少しずつ症状が
おさまっていった。し
かし、体力の回復と同
時に別の体の異常に気
付きはじめた。臭い、
かなり敏感になり始
めていたのである。

建材に様々な化学物質が 使われているらしい 不気味な予感に立ちすくむ

た。スーパーで買う食品
には全て化学物質の臭
いを感じ取り、頭では
食べ物と認識している
のに、体に「薬害」と言
う。食べ物の味よりも
先に、使われている化

学物質の方を、先ず体
は感じ取ってしまう。外
食をとった直後に、気
分や情緒が不安定とな
る。化学肥料・農薬・
香料を使っていないも
客にも私の家族にも、
移ると、ビタリと症状
が治まった。他の宿泊
様々な農薬反対運動を
していたのに、白蟻駆
除剤が農薬なのだ、
初めて気がついた。後
になって、有機リン研
究の第一人者、北里医
大の石川哲先生に、農
薬は口からとるより、呼
吸からとる方が、ずっと
恐ろしいこと伺った。
食物に付いて入って
くる農薬は、肝臓、腎
臓などの解毒器官を通
るが、大気中の農薬を

吸い込むと、解毒器官
を経ずに血液から直接
脳に行く可能性がある。
どんな大食漢でも食物
なら1日2〜3kgの摂
取量だが、空気は1日
その10倍もの量を呼吸
によってとり入れる。赤
ちゃんや幼児は呼吸の
回数が大人より多い。
空気を汚染することが、
いかに恐ろしいことか
かと思っ。
かつて感じた、不気
味な経験を思い出した。
白蟻駆除剤を撒いた後、
数年間ゴキブリが全く
現れなかったことであ
る。最初はそれを喜ん
でいた。しかし、近隣で
撒いた数軒も同様だっ
たため、「ゴキブリ退治
にうちも白蟻駆除剤を
撒こうかしら」と隣家
の人が言うのを聞いて、
思わずゾッとした。
ちょうどこの頃、転
居と新築の計画が我が
家に持ち上がり、「無農
薬の家づくり」を決意
した。大阪大学の植村
振作先生の「建材には
様々な化学物質が使わ
れているらしい」の一
言が、不気味な予感を
駆り立て、その場に立
ちすくませた。
(化学物質過敏性ネットワー